

想定した経営類型

大麦

1. 技術体系の特徴

経営類型	家族労働力	品目・栽培型及び規模		経営・技術の特徴
大麦	人	大麦(はるか二条)	a 800	(1)土地利用型作物の複合経営 (2)作業の一部は委託
	2	合計	800	
		経営耕地面積	水田8ha(自作地4ha、借入地4ha)	
経営目標	1 農業総収入	7,693 千円	4 1日当たり農業所得	44,929 円
	2 農業経営費	5,536 千円	5 1人当たり年間労働時間	192 時間
	3 農業所得	2,157 千円		

2. 資本装備と減価償却費

	種類・規模	数量	型式・構造・能力	所 割	有 合	取得価格	耐用 年数	年間 償却額
建物・施設	機械倉庫	1	軽量鉄骨 120m ²	1		千円 11,341	年 24	千円 473
	計					11,341		473
農機具	トラクター	1	33PS キャビン仕様	1		3,002	7	214
	ロータリー	1	作業幅160cm	1		503	7	36
	中耕ロータリー	1		1		514	7	37
	ブロードキャスタ	1	ホツパ容量200L	1		319	7	23
	麦踏施肥機	1	乗用	1		514	7	37
	施肥播種機	1		1		387	7	28
	自脱型コンバイン	1	4条刈り 48PS	1		6,375	7	455
	トラック	1	2トン	1		3,756	5	376
	サブソイラー	1		1		349	7	25
	ブームスプレーヤー	1	500Lタンク キャビン仕様	0.2		1,239	7	88
溝掘機	1		1		558	7	40	
	計					17,516		1,358

3. 技術体系

技術体系(大麦)(麦作8ha)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業技術					技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間	使用資材	
品種の選定	①種子注文				0.00	0.00	種子(8kg)	奨励品種から選定する。 毎年種子更新に努める。
種子の予措	①種子消毒	10下~11上		2	0.1	0.20	種子粉衣剤	『県病害虫防除基準』参照
排水対策	①弾丸暗渠(排水溝の設置)	10中~下	トラクター サブソイラー	1	0.3	0.30		前作終了後、極力早く土を乾かす。 弾丸暗渠は2m間隔とする。
耕起・整地	①土壌改良剤散布	10下	ブロードキャスト	2	0.1	0.20	苦土石灰	PH6.0~6.5とする
	②耕起・整地	11上	トラクター ロータリー	1	0.5	0.50		
施肥・播種	①施肥・播種	11中~下	施肥播種機	1	0.5	0.50	種子 化成肥料	基肥 一工程による播種を検討
除草	①初期除草剤散布	11下	ブームスプレヤー	1	0.2	0.20	除草剤	『県病害虫防除基準』参照
	②中期除草剤散布	2中	ブームスプレヤー	1	0.2	0.20	除草剤	
	③後期除草剤散布	3中	ブームスプレヤー	1	0.2	0.20	除草剤	
麦踏・施肥	①踏圧	12下	麦踏施肥機	1	0.2	0.20		
	②踏圧施肥	1上	麦踏施肥機	1	0.2	0.20	化成肥料	分けつ肥
	③踏圧施肥	2上	麦踏施肥機	1	0.2	0.20	化成肥料	穂肥
中耕	①中耕・土入れ	1上	トラクター 中耕ロータリー	1	0.25	0.25		最終的な明渠の設置を兼ねて実施する。
	①中耕・土入れ	3上	トラクター 中耕ロータリー	1	0.25	0.25		
病害虫防除	①農薬散布(1回目)	4上	ブームスプレヤー	1	0.2	0.20	農薬	『県病害虫防除基準』参照 赤カビ病防除
	②農薬散布(2回目)	4中	ブームスプレヤー	1	0.2	0.20	農薬	
施肥	②施肥	4中	動力散粉機	1	0	0.00	化成肥料	実肥(長崎W2号のみ)
収穫	①刈取り	5下	コンバイン	1	0.5	0.50		出穂後45~50日を目安とする。 小麦は早刈りすると品質が落ちるので刈取期に注意する。 大麦は収穫適期は全体の穂が90度に湾曲したときが目安。
	①運搬	5下	トラック	1	0.5	0.50		共同乾燥施設鉄コンテナ利用
乾燥・調製	①共乾施設	5下~6上	委託		0.00	0.00		共同乾燥施設利用
計					4.6	4.80		

